

令和7年度 新庄村立新庄小学校 学校評価(自己・学校関係者)評価書

評価

A：期待以上
B：ほぼ期待通り
C：やや期待を下回る
D：改善を要する

【目標を達成している】
【おおむね目標を達成している】
【あまり目標を達成できていない】
【目標を達成できていない】

自己評価			学校関係者評価		
項目	評価	分析・改善の方策等	項目	評価	自己評価に対する意見等
教育全般	A	学校生活全般に関する全項目において、保護者の肯定的回答は9割以上あった。昨年度減少した「我が子は、家庭で学校や友達の話をしている。」が、今年度は増加した。これは、「運動会の表現や学習発表会の選曲を児童に委ねる」「劇の登場人物やセリフを工夫する」「週末課題である自主学習の取組方法を校内で統一して実施している」ことなどが家庭での話題になっているのではないかと考察する。 児童の回答から自己肯定感の低下が見られた。教育活動において「こどもがまんなか」になっているか再度検証し、誰もが自己肯定感をもって過ごすことができるように取り組みたい。	教育全般	A	「学校へ行くのは楽しい。」という項目について肯定的回答が高いことはいいことだが、否定的回答(C)にも学校が注視していることが嬉しい。 小学生1年から6年という年齢の幅から、発達段階に応じた心の機微も考慮してほしいので、例えば「学校生活は楽しい。」などアンケートの質問内容の検討をお願いしたい。
授業改善	B	校内研修において「協働的な学び」と「個別最適な学び」について、小中学校合同で研修を行っている。授業者が授業公開を行い協議することが、全体の授業改善につながっている。その実践は、児童が授業で自分の考えや意見を発表したり、話し合い活動に進んで取り組んでいるという意識を高めていると考えられる。保護者からも、昨年と同様「学校は、分かりやすい授業になるように取り組んでいる。」項目において100%の肯定的回答であった。引き続き実践していく。 一方で、保護者の「我が子は、学習内容を理解している。」「学校はきめ細やかな指導を行っている。」という肯定的回答が、昨年度より低下した。今後一層、日々の授業のあり方を検証し、改善すべき点を見いだす努力をする。	学習指導	A	授業の様子を参観すると先生方が頑張っていると感じるので、授業改善について、評価はAがよい。 「我が子は、学習内容を理解している。」という項目に対して肯定的回答が減少したのは、「分からなくても質問しない。恥ずかしいのかな。」「理解するまで時間がかかるのでは。」という意見があった。そこで、質問したい時に中学校の先生など誰にでも質問できるようにしてはどうかという提案があった。
学習評価	B	昨年度まで100%肯定的回答であったが、今年度は否定的回答が増えた。その原因を解明し、さらに「指導と評価の一体化」」を心がけ、保護者のご理解いただくようにする。			
家庭学習の充実	B	昨年度の分析から「児童が意欲をもって取り組むことができる課題の内容や提出方法のあり方」を協議した結果、自主学習の取り組み方を改善した。家庭での学習時間や自分のめあてを守り、進んで学習に取り組んでいるという肯定的回答の増加から、児童は主体的に学ぶようになっているととらえ、今後も取組を継続する。			
体験的学習	A	「ふるさと新庄学」は村民の皆様のおかげで大変充実している。そのことが保護者に伝わるように、学校だよりや学級通信、ホームページのギャラリー等でしっかり発信していく。			
特別活動	A	児童・保護者ともに高評価である。小中学校合同の活動をはじめ、様々な取組を今後も継続して行う。			
規律・生活習慣	B	挨拶について9割以上の児童が「自分は、あいさつをしている。」と回答しているが、声が小さくて相手に伝わりにくい場面がある。また、はきものを揃えたり持ち物を整理整頓したりする意識の低下が見られる。自律の大切さを児童に伝え、根気よく指導していく。	生徒指導	B	地域での様子を見てみると、子どもたちは挨拶として会釈をしているようだ。挨拶の声が小さい要因の一つとして、大人と子どもたちの関係性が考えられる。顔見知りであれば子どもたちは大きな声で挨拶をするので、まずは大人が関係を結ぼうとする努力が必要である。 はきものを揃えたり持ち物を整理整頓したりする力は大人になった時に大事なので、家庭でもしっかり頑張ってほしい。
共感的な集団作り	A	複式学級や5・6・7年合同の活動、小中学校合同での活動など児童は様々な集団の中で過ごす経験をしている。その経験から人を思いやる心を育んだり、中学生になった時の自分の姿を想像したりすることができている。今後も継続して取組を行う。			
教育相談	B	昨年同様、教育相談を定期的に行い、児童からの相談に丁寧に対応したが、今年度は児童・保護者ともに「先生が話（話や気持ち）を聞いてくれる」項目の肯定的回答が100%とならなかった。共感的傾聴ができるようにスキルアップを行い、来年度は肯定的回答が100%となることをめざしたい。			
いじめ防止	B	児童の様子を毎週末の終礼で情報交換し、対応について教職員間で共通理解を図りながら指導を行っている。また、PTAや社会教育のプール解放時には職員がついて見守るなど、保護者からの要望に真摯に応えた。このような取組が児童・保護者に伝わった結果、昨年度以上にいじめ防止の姿勢に対しての肯定的回答が増加したものととらえている。今後も取組を継続していく。			
保健・安全指導	A	「しせいよく学習しようと意識している」児童が、年々増加している。これは授業者の声かけとともに、昨年度から引き続き行っている養護教諭や栄養教諭の取組の成果ととらえる。 保護者から、子どもの校内・登下校の安全確保についてD評価がついたことに猛省している。早急に対処し、保護者に学校は安全安心の場であるというご理解をいただく努力をする。	保健・安全指導	A	「自分は、少しぐらい苦手なことでも、がんばることができる。」について児童の肯定的回答が高いことに、地域での活動の時の姿とのギャップがあり驚いている。確かに運動会や学習発表会での様子を見てみると、子ども達は頑張っていると感じる。学校では頑張ろうというスイッチがあるのかもしれない。何事にも伸びようという意識を持って取り組み、卒業時にやりきったという思い・満足感を持ってほしい。
家庭・地域連携	B	地域学校協働本部の働きのおかげで今年度も円滑に地域連携ができており、ありがたい。一方、家庭との連携は、保護者の肯定的回答が昨年度より10%減少した。保護者が学校との連携を実感できる取組を工夫したい。	家庭・地域連携	A	よく連携ができている。地域の方も入ってくださっているので、肯定的回答が減少したのは保護者の方に学校の姿があまり伝わっていないのではないだろうか。例えば具体事例を挙げて質問すると学校の姿が分かるので、質問内容の再考を提案する。